

仙人通信 124 鉢伏山(1929 m) 高ボッチ山(1665 m)

鉢伏山は、諏訪湖と美ヶ原の間にあり山頂近くまで車で入れ、春には躑躅やズミの花等多くの花に恵まれた花の百名山である。一方、高ボッチ山は塩嶺峠へと繋がる山並みでデイラボッチ伝説と競馬でも有名な山でもある。

国道 20 号・旧中山道の塩嶺峠から、カラマツ林の高ボッチと鉢伏山スーパーラインを車で詰めての散策コースである。

車窓では、黄色いキクイモ・ハンコウソウ・キツリブネソウ・ギオンや赤紫の萩・ツリブネソウが秋の始まりを告げている。九十九折の急な登りも緩やかになり競馬場の近くでは、紫色のヒヨドリソウ・シャジクソウが目に入る。やがて黄色いマルハダケフキの咲く、高ボッチ山の横を通過し、林道の終点である鉢伏山荘の駐車場に向かう。(因みに駐車代 100 円) ガスが出て鉢伏山の山頂を覆い、展望は期待できないが、雨に会わねば幸いとスタートだ。笹・ススキで覆われた山肌に、バイクで山頂まで行けるような緩やかな登山道が続く。自然保護のため、両側にグリーンのナイロンロープが張られているのは寂しい。ピンクのハクサンフーロ・紫色のトリカブト・ヤマニラ、黄色いアキノキリンソウ・マルハダケフキ、赤いコウリンカ・カワラナデシコ・シモツケ、白いウメバチソウ・タチコゴメクサ・ヤマハハコ・オンダテ等の秋の花が切れ間なく咲く。何と 20 分で鉢伏山頂である。

山頂には石の祠が祀られ・休憩所・展望台があるも、ガスの中で視界が利かず残念！。少し戻り、山体の北側にある古い林道を進むと、黄緑のヒカゲカズラが立派な花を付けて居るのを発見(やった！)。花の先端が尖ったハナイカリも多い。一方眼下の沢の頭では、一面のトリカブトの花である。コースを戻り鉢伏山と反対側にある扉峠方向に 200 m 程進み前鉢伏山に向かう、ソバナ・ツリガネニンジン・ヤマネジバナ・ワレモコウ・アザミも加わり、目の前では赤トンボやアゲハ・ヒョウモンの蝶が乱舞する、三角点の山頂に着く。ここでは霧が無く、美ヶ原高原から先程登った鉢伏山までが一望だ。

2時間の散策をした後、高ボッチの駐車場に向かう。

高ボッチ山への登山道は同様になだらかであるが、鉢伏山の小田砂岩礫岩層の白い礫に対して、黒い土に覆われた高ボッチ黒色泥岩層だそうだ。

花の種類は大きく変わらないが、菊の仲間のゴマナや黄色いクサレダマ・紫のトモエシオガマ・シャジクソウ・ニガナ等も見ることができた。山頂からは蓼科山・諏訪湖・入笠山等が望めた。駐車場から牧場へ向かうコースでは、ピンクのウインナーほどのホザキシモツケ等、沢山の花達にも巡り会え、4時間強(13000 歩)のナンビリとした山旅となりました。(H 26. 9. 3)

鉢伏山山頂に向かう登山道



ウメバチソウ



マルハダケフキ

